

ひなたさわ さぼろ えんてい
日向沢砂防堰堤

「農救事業」による砂防堰堤

1933(昭和8年)、飯島町七久保日向沢に砂防堰堤が建設された。景観や強度への配慮から間知石積ではなく野面石積とした堰堤。また法切、基礎工事にも工夫を施した。本事業は昭和前半の大不況期に農民を労働者として雇用して救済する「農救事業」により行われた。



自然石を活かして積み上げられた堰堤

information

- アクセス
松川ICから15km
車→30分
- 所在地
飯島町七久保



間知石積・野面石積とは

日向沢の出水

間知石積とは、工業規格で規定された大きさに加工した角錐型の石材を用いた石積。野面石積とは、自然石を用いて、石肌の風合いを活かし、面をそろえた石積。

日向沢は、長さ10kmほどの前沢川の支川で規模は大きくないが、伊那谷でも特異な暴れ川であり、土石流が頻発している。七久保の日向沢の出口には、土石流により運ばれたとされる巨岩「遠見石」が残されている。1923(大正12)年に発生した日向沢の土石流は、飯田線の鉄橋を破壊し、旧片桐村役場や住宅25戸を流失させる被害をもたらした。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)